



## PROFILE

1957年熊本県出身。84年ロサンゼルスオリンピック男子柔道無差別級で金メダルを獲得し、国民栄誉賞を受賞。現役引退後は、全日本柔道男子などの指導者として活躍。2003年に国際柔道連盟理事に就任。現在は東海大学理事・副学長・体育学部長。06年に設立したNPO法人柔道教育ソリダリティーは09年に「認定NPO法人」に。柔道を通じた国際協力に取り組む。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

これまで柔道を通じていろいろな国の人とかかわってきましたが、とにかく世界は広い。どこに行っても、誰と会っても、新しい発見と感動があります。でも乱取りで身体を突き合わせていると、不思議なことに、国籍が違って心を通い合う瞬間があるんです。そんな時、結局どこにいても皆、同じ人間なんだと感じます。

日本発祥の柔道は100年近くかけて世界中に広まり、国際的なスポーツに発展しました。柔道着を身にまとい、畳の上ではだして競技をする。どれもまさに日本文化を象徴するものです。そして、試合前後の“礼”。相手は敵ではない。戦う相手がいるから、自分を磨き高めることができるというのが柔道の考え方。相手への敬意を礼で表すという、この日本人らしい精神は、世界各国の柔道家の心にも深く染みついていて。一方で、練習方法など

はそれぞれの国に適したアプローチがあり、日本が世界の柔道から学ぶこともたくさんあります。

競技者、指導者として長年柔道にかかわってきましたが、2003年に国際柔道連盟の理事に就任して、日本人がいかにかわまれた練習環境にあるかを知りました。世界には、貧しくて柔道着が買えない人がたくさんいる。私は一柔道家として彼らの助けになりたいと、06年に「NPO法人柔道教育ソリダリティー」を設立しました。

活動のモットーは「柔道・友情・平和」。一人で行えることは限られているけれど、思いに賛同してくれる仲間が集うことで、世界中の人との友情が深まるよう種まきをしたい。現在は、日本人指導者や学生ボランティアの派遣、リサイクルの柔道着や畳の寄贈、柔道場の建設支援などの活動を続けています。

私は、ただ強いだけが柔道家で

はないと考えています。柔道で学んだことをいかに自分の人生に生かし、社会に還元していくのが大切なのです。ですから、私にとって国際協力は、まさに柔道の根底にある「自他共栄」の精神からくるもの。柔道を愛する人々が支え合い、共に発展していければと思っています。

最近、大学で教鞭を執っていても日本人の若者が内向きになっていると感じます。でもそれは、限られた人生の中で本当にもったいないことです。20年、30年後の未来を決めるのは、あなたたち自身。“違い”を恐れずにどんどん外に出ていき、日本と世界をつないでいってほしいと思います。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。[なんとかしなきゃ.jp](http://nankashinaky.jp)  
詳しくはこちらから→